

Focus 03

分野の垣根を越え、社会の要請に応える

2007年に発足した「数学と諸分野の協働によるブレークスルーの探索」研究領域は、諸分野の研究者、企業などの理解を得て順調に成果を挙げ、2016年3月で区切りを迎えた。

西浦廉政研究総括に足掛け9年にわたる取り組みについて聞いた。

研究領域は、さきがけとしてスタートし、1年後にCRESTを加えましたが、さきがけの研究者がCRESTの研究代表者になるケースも生まれるなど理想的な展開となりました。

数学と諸分野とでは、言葉や価値観、文化の面で「垣根」がありました。しかし、議論やさまざまな試行を重ねることで、双方に大きな影響をもたらすことができました。

研究は「人」がすべてであり、独創的で開拓者精神にあふれ、かつ「ポリバレンタ」（化学用語で、さまざまな物と結合して多機能性を発揮すること）な人材の必要性を訴えてきました。研究活動を通じて、そうした人材が育

ち、周囲に多くの協力者が集まってきたことが最大の収穫です。数学と諸分野の協働を通じて社会ニーズに応える研究が広がったことも有意義でした。

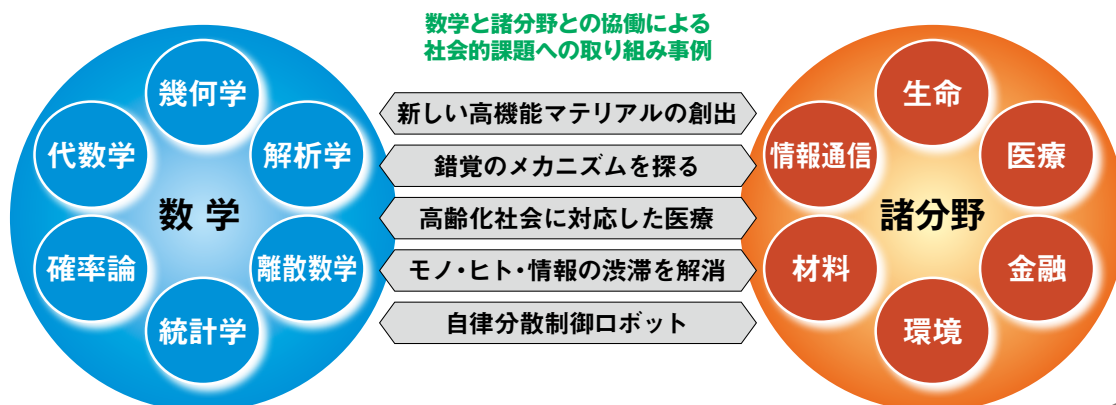
もちろん、見えてきた課題も少なくありません。数学と諸分野の協働は始まったばかりで、内容の充実とともに層を厚くしていく必要があります。

大学でも、数学、物理、化学などの研究者が特定の研究室に所属しないで面白いと思ったテーマに取り組む場をつくっています。そうした自由な研究風土の中で数学研究者が大いに活躍することを願っています。

研究領域はひとつの区切りを迎えましたが、「越境する数学」の新たなスタートでもあります。

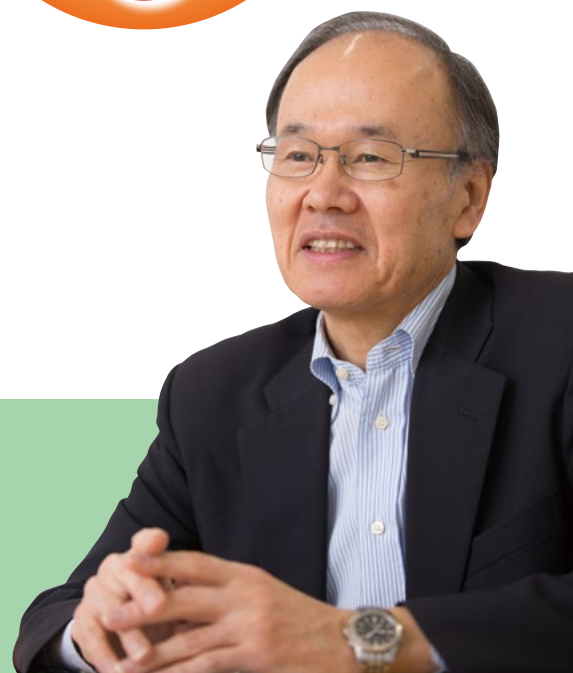
数学は、身近な世界でもっと貢献できます。若い人にも数学の魅力を知っていただき、既成概念にこだわらないでどんどん活躍してほしいと、研究領域の若手研究者に講師をお願いし、「数学キャラバン」を全国で実施してきました。数学者が積極的に外に出ていくことも「越境する数学」にとって重要です。

研究を継続することで未来が広がると確信しています。



数学キャラバン

数学の面白さ、楽しさ、社会との関わりを感じてもらうために、主に高校生を対象に、全国11都市で17回開催した。延べ受講者は約1,500人を数える。研究領域の若手研究者が講師となり、毎回2～4テーマの講演と、実験・実演を行った。



西浦 廉政 (にしうら やすまさ)

東北大学 原子分子材料科学高等研究機構 PI / 教授

1978年、京都大学大学院理学研究科単位修得退学。理学博士。京都産業大学、広島大学、北海道大学を経て、2012年より現職。07年より、「数学と諸分野の協働によるブレークスルーの探索」研究領域 研究総括。